

検討の方向性（イメージ）

1 検討の視点

- 肉用鶏における衛生管理水準のより一層の向上と、食中毒防止のための関係省庁協働による情報提供の強化が重要。検討の視点として、①技術面の課題、②社会の意識向上の面の課題、③情報提供の面の課題について方向性を整理。

2 検討の方向性

（1）技術面の課題

- フードチェーンにおける定量的データが重要。調査の設計から調査データの利活用を含めた実証の調査体系を検討。
- カンピロバクターの有効な管理手法（低減対策）については、まずは菌量を抑制できている事例収集など、現時点で望ましい管理手法の明確化。

（2）社会の意識向上の面の課題

- フードチェーンにおいて、科学的知見に基づき、生産者等による自主衛生管理を推進し、食品安全に関する国民の意識の向上につなげることが重要。
- カンピロバクター低減対策については、現時点では、生産者・関係事業者等が自らの取組を社会へ発信する手法（「自主宣言」）による自主的な取組を促す仕組みが適当。

（3）情報提供の面の課題

- 食中毒を防止するため、さらなる情報提供と情報に基づく行動変容を促す取組が必要。両者とも、業界と行政の協働による対応が重要。
- SNSなどによるホームページへの誘導、業界と行政が協働した啓発の取組を検討。